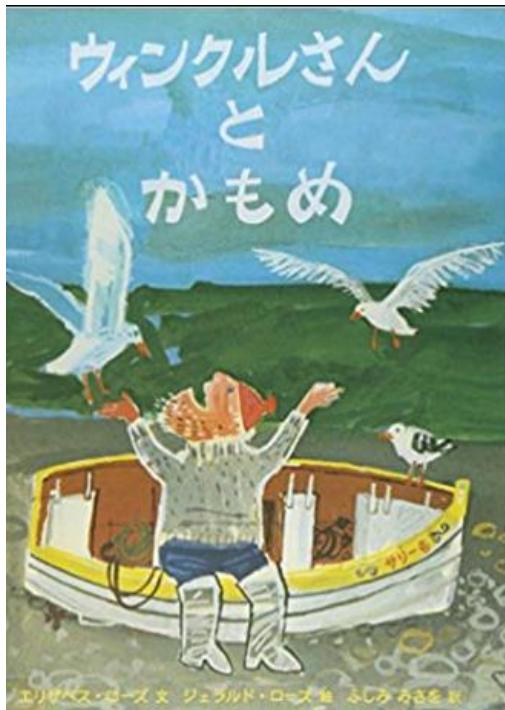


～読んでみない？こんな本～

ウィンクルさんとかもめ

エリザベス・ローズ文 ジェラルド・ローズ絵 岩波書店



ウィンクルさんは漁師です。持っているのはサリー号という、おんぼろボート。ほかの漁師たちの立派な船のように、魚の居場所のわかる機械もついていません。魚はあまり取れないのに毎日かもめに餌をやるウィンクルさんの姿を見て、ほかの漁師たちはばかにして笑っていました。ところがある日、魚がぱたりと取れなくなります。漁師たちはひまになり、町のみんなも困ってしまいます。魚屋で飼っている猫もすっかりやせてしまうほどです。漁師たちがすっかりあきらめてしまっても、ウィンクルさんだけは魚が戻ってくることを信じて、毎日サリー号で漁に出していました。そんなある日のこと、いつも餌をやっているかもめが、ウィンクルさんに向かって“ついてこい”というように鳴っています。ウィンクルさんはボートのエンジンをかけて、沖に出て行き…。

最初ウィンクルさんは一人ぼっちで、話し相手といえば餌をやるかもめ達ぐらいなのですが、寂しさを感じさせません。お話からは、海もかもめのことの大好きなウィンクルさんの、のびのびした雰囲気が伝わってきます。ほのぼのとした、あたたかい雰囲気があり、読み終わった後幸せな気分にしてくれる、そんな絵本です。